

令和8年度道路整備促進高知県大会 (主催:道路整備促進期成同盟会高知県地方協議会)

令和8年5月11日(月)、城西館(高知市)において、濱田知事、明神高知県議会議員長、四国地方整備局奥田局長、西日本高速道路(株)四国支社喜久里支社長をはじめ、ご来賓の方々、会員の市町村長、議会議員長など約180名の方々の参加のもと、「令和8年度道路整備促進高知県大会」を開催しました。

大会では、国土交通省道路局水野環境安全・防災課長から、「いつもの道を、もう一度見直す」、作家の山本一力様から、「「育ちざかり」の土佐路!」と題してご講演いただきました。最後は、幹線道路ネットワークの機能強化、国土強靱化を踏まえた関係予算について通常予算と別枠で必要な予算を満額確保することなど、6項目の決議を満場一致で採択しました。

大会次第

- (1) 開会
- (2) 主催者挨拶
- (3) 来賓挨拶
- (4) 来賓紹介
- (5) 講演「いつもの道を、もう一度見直す」
国土交通省道路局環境安全・防災課長 水野宏治 様
- (6) 講演「「育ちざかり」の土佐路!」
作家 山本一力 様
- (7) 決議採択
- (8) 閉会

主催者挨拶



主催者
会長 池田 洋光

- 本県の四国8の字ネットワークは、昨年度2箇所が開通し、開通効果を実感している。また、四国全体でも、未事業化区間が残り1区間となるなど、整備は着実に前進している。
- 南海トラフ地震の発生確率見直し等を踏まえ、計画的な道路整備が必要。
- 長期安定的な道路整備を目指し、新たな財源の創設に向けて、一致団結し、全力で取り組む。

来賓挨拶



高知県
知事
濱田 省司 様

- 県政の最重要課題は人口減少対策。若者・女性に選ばれるため、安全安心な県土整備を加速することが不可欠。
- 南海トラフ地震の切迫化を踏まえ、「安全・安心な高知」の実現に向け、緊急輸送の要となる8の字ネットワーク等の道路整備を加速しなければならない。
- 物価高騰も踏まえた別枠の予算・財源確保を提言し、高規格道路等の早期完成を進める。



高知県議会
議長
明神 健夫 様

- 道路は本県の産業、経済、県民の日々の暮らしを支える重要な社会基盤。
- 激甚化する自然災害等への備えとして、「命の道」の整備は、災害に強い県土づくりの要。
- ミッシングリンクを解消し、良好なネットワークを次世代へつなぎ、誰もが安心して暮らすことができる高知の実現に向け、県議会としても、行政と連携しながら力を尽くす。



四国地方整備局
局長
奥田 晃久 様

- 南海トラフ地震は科学的・歴史的に一定周期的で発生している。ハード・ソフト両面の事前準備を重視し、8の字ネットワークの整備を最優先で実施していく。
- 補正・当初で過去最大規模の予算は確保したが、人件費・資材価格の高騰等により実質的な不足感がある。来年度予算の増額に向け、関係機関に地域の実情を届けていただき、連携して予算・財源の確保を目指す。



西日本高速道路(株)
四国支社 支社長
喜久里 真二 様

- 高速道路は南海トラフ地震等の災害発生時の救援・復旧にあたり、非常に重要。
- 緊急輸送路の確保のため、高知道では、橋梁耐震事業を推進。
- 大規模災害時の早期復旧の観点からも4車線化は重要な施策と認識。引き続き、機能強化に貢献していく。
- 安全・安心最優先で、高速道路ネットワークを通じた地域の発展と利便性向上に努める。

講演

【いつもの道を、もう一度見直す】

国土交通省 道路局環境安全・防災課長 水野 宏治 様

- 交通事故の死者数は高齢者が多く、歩行中の死亡事故の7割は横断中に発生しているため、安心して横断できる環境整備が重要。
- 交差点は管理者が複数となる場所であり、スクラムライン（同時施工）により、同時期にひとまとめに施工することで、早期補修・コスト削減が可能。
- 安心して走れる自転車通行空間が不十分であり、車道混在型が多数を占めている。ネットワークと質、両輪で支える空間の整備が重要。
- 日本にはおよそ3,600万本の電柱が存在し、未だに増え続けている。特に、歩道がない道路において、電柱が子供を車道に押し出している状況がある。緊急輸送道路の新設電柱の占用禁止と同様に、通学路においても、増やさない・引っこ抜く対策が必要。
- 南海トラフによる孤立、最初に必要なのは道。道路啓開は時間がかかることが想定されるため、個人としても備蓄で時間を稼ぎ命をつなぐよう呼びかけて欲しい。



国土交通省 道路局
環境安全・防災課長
水野 宏治 様

講演

【「育ちざかり」の土佐路！】

作家 山本 一力 様

- 妻の運転で高知から徳島へ向かう途中、奈半利町から山中へ入る新ルートを初走行。整備された区間の後に狭い山道が続いており、道の成り立ちに関心が芽生える。県庁で道路事情を聞き、多くの道路が高知各地で造られている事実を知る。このエピソードをエッセイで紹介し、その結果が今回の講演にも繋がった。道は知らない者同士を結び付けてくれる。
- ジョン・マンの取材で米国を車と徒歩で巡り、歩くことで土地の厳しさや歴史を身体で感じた。「道」は空路・航路も含むが、人の縁を生むのは地べたの道路である。道は人が造り、人が動くことで、土地への理解と人との縁を結んでくれる。
- これまで時代小説を書いてきたが、江戸の街道は狭く悪路で、人々が自力で道を造り守ってきた。資料だけではその苦労は実感できなかったが、今は道路工事を担う皆様の大変さを痛感する。現場で働く人々へ感謝し、土佐路がさらに育つことを願う。



作家
山本 一力 様

決議

- 高規格道路のミッシングリンクの解消など、6項目の決議案を力強く朗読。全会員の賛同をいただき、道路整備促進期成同盟会高知県地方協議会として採択した。



副会長 小田 保行

閉会挨拶

- 昨年は、8の字ネットワークの2区間が開通するなど、本県の道路整備は着実に前進した。また、その効果を県内各地へ波及させるためにも、8の字ネットワーク及び高知松山自動車道の日も早い完成が望まれている。
- 引き続き、各市町村が直面している様々な課題の解決に不可欠となる道路整備を着実に進めるため、会員が一丸となって取り組んでいく。



副会長 中平 富宏

